

geometry of old house - 古民家の幾何学 -

古来より日本には“間”があり、古民家には間が構成する“幾何学”が存在する。間は人間の尺度であり、ただの数値ではない。快適な広さ、高さ、人との距離感などの人の感覚に寄ったものである。本提案は、古民家に顕われる幾何学を崩すことなく空間を再編成することで、現代の要求に適った“間”をつくりあげるものである。

for renovation...

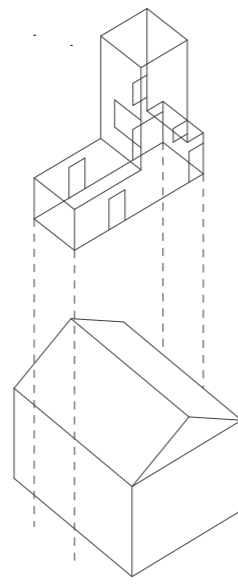
残すもの	残さないもの
<ul style="list-style-type: none"> 蔭が這う外壁 古民家の幾何学 均整のとれた形 水周りの配置 	<ul style="list-style-type: none"> 隣接する店舗と生活空間 日中なのに暗い室内 閉塞的かつ内向的

よいものは残し、悪いところを改善する。これはリノベーションの基本である。対象物件のよいところと悪いところを整理することで、設計の糸口を探る。

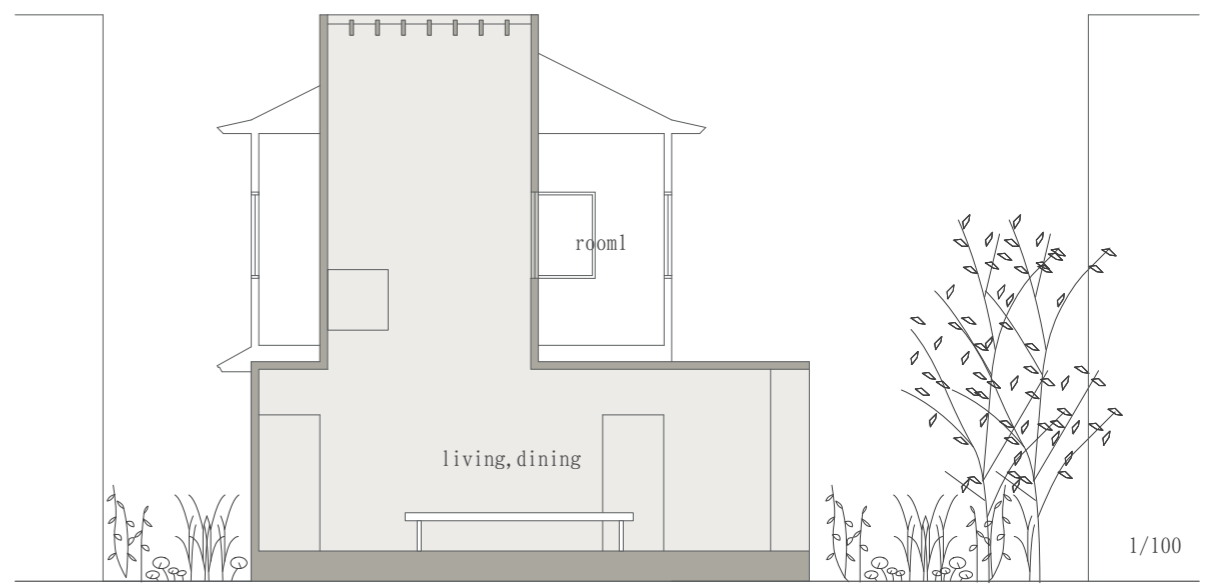
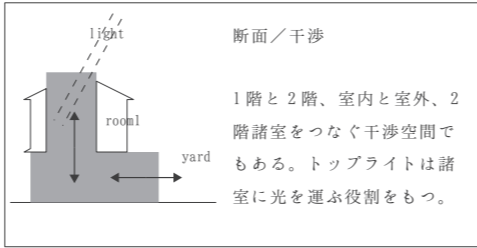
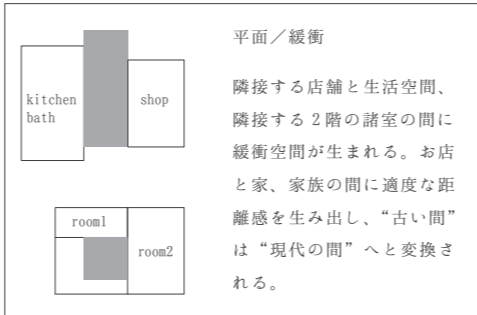
建物自体を大きく弄ることなく、諸問題を解決する。

diagram

古民家の内側に、古民家の幾何学に従いながら新しい空間を挿入する。



acsonometric



1/100